みちのく

少 年 編

－第４３号－

令和３年度発刊

仙台矯正管区

刊行のことば

本誌は、昭和五十五年の創刊号以来毎年刊行し、本号で四十三号を数えております。

当管区では「みちのく書画文芸コンクール」を開催しており、本誌には、同コンクールに応募した、当管区管内少年院の在院者の書画作品及び文芸作品のうち、各分野で御活躍の先生方の審査により入賞した作品を掲載いたしましたので、ご覧ください。

令和四年三月

仙台矯正管区

表紙の題字は久道石静氏の揮毫によるものです。

目　次

【文芸部門入賞作品】
作文・・・・・・・・・・・・・・・・2
【選評】川田永子 先生
詩苑・・・・・・・・・・・・・・・・7
【選評】原田勇男 先生
歌壇・・・・・・・・・・・・・・・・12
【選評】伊藤久子 先生
俳壇・・・・・・・・・・・・・・・・14
【選評】鈴木三山 先生
柳壇・・・・・・・・・・・・・・・・17
【選評】佐藤岩男 先生

【書画部門入賞作品】
絵画・・・・・・・・・・・・・・・・22
【選評】吉田利弘 先生
ポスター・カレンダー・・・・・・・・27
【選評】鈴木智枝 先生
書（毛筆）・・・・・・・・・・・・30
【選評】村山柳雅 先生
書（硬筆）・・・・・・・・・・・・35
【選評】村山柳雅 先生

作文の部

審査員

東北アララギ会「群山」編集委員
日本歌人クラブ会員
宮城県芸術協会会員

川田　永子　先生

「夢」

盛岡少年院　C・Y

私が「夢は何?」と問われるとすぐにラッパーと花屋という答えが出てきます。今回はそのラッパーについて書こうと思います。

ラッパーと聞くと、どのようなイメージを持つでしょうか。

ガラが悪いなど、あまり良いイメージを持たない人が多いのではないでしょうか。しかしヒップホップほど、気持ちをぶつけたり、気持ちを伝えたりすることができる音楽はないと私は思います。

音楽には洋楽、邦楽、ヒップホップ、Kポップ、レゲエ等様々なジャンルがあります。洋楽と言えば、ジャスティン・ビーバーやアリアナ・グランデ、邦楽と言えば米津玄師やＹＯＡＳＯＢＩが有名で、KポップのＢＴＳは世界でブームを巻き起こす等、音楽は世界中で楽しまれ、人々を虜にしています。

同じ音楽であっても、ヒップホップは、海外では一つの音楽ジャンルとして確立され、愛されていますが、日本では偏見もあって知名度は高くなく、目にする機会も、耳にする機会も少ないのが現状です。

ヒップホップは、他の音楽と違い、歌詞が韻を踏みながら、サンプリングという特有の音楽に合わせて歌うのが特徴です。ヒップホップという音楽でしか伝えられないことがとても多くあります。

今振り返ると、私がヒップホップに興味を持ったのは小学生の頃で、ラッパーになりたいと思い始めたのは中学生の頃でした。

小学生の頃に「湘南乃風」にはまり、暇があればずっと聞いていました。そして、中学生の頃、ＡＮＡＲＣＹというラッパーに出会い、自分もこんな曲を作りたいと思い始めました。

なぜこんな素晴らしい人達がテレビ等に出ず曲を作っているのかわかりませんが、もっと注目されるような活躍をしてほしいと思っています。

ラッパーは過去に少年院に行った人たちや、現在も犯罪に関わる人が多いことは事実だと思います。しかし、悪い過去や一部の人に対する印象だけで、ラッパー全体が判断されてしまうことはすごく悲しいです。最近も、あるラッパーが薬物関係で逮捕されましたが、それはラッパーだからではないと思います。ラッパーだから犯罪をするという考えは、おかしいと思います。私は、偏見抜きでもっと多くの人たちにヒップホップやラッパーを知ってほしいと思います。ヒップホップ・ラッパーイコール不良やアウトローという偏見をどうすればなくせるのか、私は日頃から考えています。

「般若」というラッパーは東日本大震災にショックを受け、震災復興のために曲を作り、その曲の売り上げを全額寄付したそうです。私は以前、東日本大震災の復興のために寄付等をした有名人を集めた動画をみたことがあるのですが、そこには当然のように「般若」の名前はありませんでした。なぜ、その名前がなかったのかはわかりませんが、もし彼らがラッパーだから、という理由なのだとしたら、良い行いすら認められないこの社会に、悲しみを持ってしまいます。

海外では、ヒップホップはメジャーで、ミュージシャンとしての評価も高く、数々の音楽賞を受賞しているのに、日本で話題になるのは、ラッパーが逮捕されたときくらいで、ヒップホップの良い部分が表に出ることはほとんどありません。私は、ヒップホップ、ラッパーの見方を変えるようなラッパーになりたいと思います。そしてそれと同時に、これまでのヒップホップやラッパーのイメージを一蹴するようなラッパーの出現も願っています。いつか、日本でも他の音楽のように、ヒップホップ文化を楽しめる日がくることを切に願っています。

ここまで、ヒップホップについて書いてきましたが、ヒップホップに限らず、音楽は本当にすごいなと思います。私は、ヒップホップだけでなく、バンドやアイドル、ボカロやアニメソング、洋楽、邦楽、サザンオールスターズからＹＯＡＳＯＢＩまでなんでも聴きます。音楽がないと気が狂いそうになるくらい、音楽に支えられて生きています。おそらく音楽がこの世からなくなっていれば、この作文も書いていない、つまり「生」を謳歌していないと思います。

私は、音楽とは世界共通のコミュニケーションだと思います。正直、音楽で世界を救えるとさえ思っています。私自身、洋楽は好きですが、ほとんど何を言っているのかわかりません。しかし、何度も前向きにさせられ、力をもらってきました。私の外国籍の友人も、難しい日本語がわからないそうですが邦楽が好きで聞いていました。この世の人が共通でもっているのは言葉だと私は思っていますが、その言葉は国や地域で異なります。しかし、音楽は言葉が通じなくとも、伝わるものや伝えられることがあります。これはかつてないほどのコミュニケーションだと思います。

今日、日本で言えば国歌である「君が代」のように国を代表する音楽を持っています。イギリスやドイツは正式な国歌を持っていないらしいですが、国に一つ国民全員が知っている音楽があるというのは、素晴らしいことだと思います。

キリスト教の讃美歌は、生きている場所、国が違っても、キリスト教を崇拝している人なら共通の音楽です。これも一つのコミュニケーションだと思います。人権、年齢、身分に関係なく楽しめ、そして何より共通のコミュニケーションである音楽は世界一自由であり、平等なものだと私は思います。

私の夢はラッパーと花屋ですが、何を目指すにせよ、絶対に簡単ではありません。しかし、実現可能性がゼロパーセントになることは、百パーセントあり得ません。なので、これからも私は、夢に向かっていきたいと思います。

寸評

偏見は、自分の好きな音楽の分野に於いてもあるので、そのイメージを正したいとの夢を詳しく語っています。国歌である「君が代」にも触れて、音楽を「世界共通のコミュニケーションである」との解釈に感心しました。好きな「夢」に向かってしっかり歩んでください。

きらめき

東北少年院　S・K

僕にはたまに、目に映る全てが輝いて見える時がある

今日だってそうだ。

朝、浅い眠りから覚醒すると、テニスコート上には僕と一緒に目を覚ました光の束が、強い意志を持って輝いていた。

そんな光景を目にしてしまえば、この世界と密接に繋がっているお隣の世界を、こっそり覗いてしまっている気がしてくる。

それでも、秒針が目を覚ませば世界も瞼を開き、汚れた部分はアザとなって浮かび上がる。僕はこんな世界も好きだ。

だけどここは、風の谷のフカイみたいな世界で、そう永くは居られない場所。

こうして僕は、今日も内側の世界を創造していく。

物語の始まりはいつも同じ場所だから、迷子にならずに済む。

ネオンが脇役の街を行き交う人々は、過去の涙は無かったかのような笑顔で、僕とは反対方向へと進んでいく。今日は僕も、歩いてみる。あの時のキラメキは、この突き当たりを右だった。辺りはすっかり闇に包まれてるけど、この闇もあれだけの光は包み隠せないはず。なのに、そこには何も無い。

道を間違えたのかもしれない。気が付けば、自分が何処に立たされているのかすらも分からない。一人は怖い。

僕は、この場所に執着している。その自覚はある。

写真のダイヤモンドにはダイヤモンドの価値が無いように、過去のキラメキも記憶となれば、輝きは錆びていくだけだ。それなのに、写真の夕陽は暮れないんだなんて思ってる。明けもしないのに。

でも本当は、暮れても明けてもどっちでもいいんだと思う。だってこれは、負け惜しみみたいな、いつもの言い訳だから。

眩しくて、瑞瑞しくて、見ているだけでも歯痒いほどの、あの光のつぶ一粒一粒を愛していただけ。僕がそれを、守れなかっただけ。

あの時の過ちで、指の隙間からこぼれ落ちた光は、どんな色をしていたのだろう。

一年前、僕はこの星の誰よりも早く夏の声が聞こえた気がして、春先の海を泳いだ。

夏は好きだ。でも、その数ヶ月後に、僕はこちら側の世界の住人になった。

十年前、僕の家には悪魔が棲み着いていて、僕はその悪魔に嫌われていた。悪魔のいたずらが心底怖くて、見つからない場所まで必死に駆け出した僕の顔も、人の事を悪魔だのと言えるものではなかっただろう。あの時からこちら側に居たのかもしれない。今となれば、あちら側でもこちら側でもどちら側でも構わない。分岐点だった事には変わり無いけど、お陰様で僕はキラメキと出会えた。

感受性は豊かな方で、心の内に秘められた光も、裏路地を照らす蛍光灯と等しく感じられた。

自分の心臓を自分で握れている日々の中で僕は、世界の広さを知る事が出来た。

人間の性は二種類だけじゃない事。言葉以外で相手と繋がる事。そして、自分を表現する事。

僕は、中でも音楽と絵を愛した。紡ぎ出した一音一音はまさに燦然と輝き、点から線に、線から円へと次元を超える理は、僕が求めるキラメキそのものだった。

慣れほど恐ろしいものを、僕は片手で数えられる程しか知らない。

僕を包んだキラメキ達は、やがて背景となって、ピントは合わなくなっていった。

キラメキをぼかしてまで僕が見つめていた物は、いったい何だったのだろう。

記憶の糸をいくら手繰り寄せようと、あの時夢中になっていたであろう物は、僕を誘うようにして、闇夜に融けていった。

それはきっと、波打ち際で拾おうとした貝殻を、海に横取りされた時のように、どうする事も出来ないものだと、その時悟ってしまった。

ただ、二つだけ分かっている事もある。キラメキを背景へと追いやった物は、今の僕には見えないという事。そしてそれが見えなくなって、今はきらめきが見える事。

何がどこに作用したのかは、さっぱり分からない。この場所で多くを学んだ事かも知れないし、いただきますと、手を合わせるようになったからかも知れない。

点から線に、線から円へと繋がっていっているという事なのだろう。醜いアザもシミも歳月を重ねれば、点として、線へと命を運ぶ事もあるのだろう。まるで絵に描いたような運命だ、なんて思う。

気が付けば、太陽は首を傾げて夜が今日も僕以外を奪っていく。

だけど、僕だけは奪われない。残された僕は、今日という一日の最後の声に耳を澄ます。

指先で光をなぞり、肌で風を感じる。

今後もまだ眠れそうにないから、君との世界を創造していく。

きらめきは、今日もここに輝いて、悠々の旅を共に行く。

きらめきは、僕を一人にさせはしない。

きらめき。

これが僕の宝物

寸評

幻根的な思考を重ねて、現在の自分の心境を順序良く表現しています。つまり「写真のダイヤモンド」には価値が無いように、「キラメキ」も過去の記憶となれば、その輝きは錆びるだけだと語って自己批判をしている内容です。その首尾照応が整っています。

A先生との出会い

青葉女子学園　W・E

青葉女子学園に入院する前は、大人を信じられず、自分の気持ちはどうなのかを全く人に言えませんでした。そのため、私のことなのに周りが勝手に決めてしまって、それを受け入れることができなくて、物事から逃げ出して、自分のカラの中に閉じこもり、不満だけを募らせる日々を送っていました。入院して間もない頃は、それでも先生方や他の寮生に合わせて自分を押し殺していましたが、だんだん生活の中に綻びが出て、決まりを正しく守らないようになりました。そのため、度々先生から怒られるようになり、私の気持ちなんか知らないくせにと思い反発することもありました。結果、私は二級前期生から二級後期生に移行するまでに五ヶ月程かかってしまいました。二級前期の頃の私は気持ちも不安定で、学園での生活を前向きにとらえることができなかったので、日課拒否などの遵守事項違反を繰り返していました。学園生活に行き詰まりを感じ、「もう自分なんてどうなってもいい。」と思いながら毎日を過ごしていました。そんな生活を送っている私に声を掛けてくれたのがA先生でした。遵守事項違反をした私を調査する担当の先生です。もちろん、調査の時は違反したことや、その時の自分の気持ちについて聞かれて答えましたが、それ以外の時もA先生は時間を作っては面接指導に来てくれました。私は自分の気持ちを相手に上手く伝えることが苦手で、初めのうちはA先生にも言葉にして伝えられずにいましたが、いつも「ゆっくりでいいよ」と私に合わせて話をしてくれていたので、話す機会が増えるにつれ、少しずつ言えるようになりました。しだいにA先生に、私が地元で生活していた頃の話や青葉での生活やその時々の気持ちを自分から話すようになりました。A先生は自分の経験なども話してくれたので、とても楽しく、話が盛り上がってたくさん笑ったりしました。けれども、私が投げやりになっている時は厳しく叱ってくれました。今私が覚えているA先生は総じて優しく、忙しい中「暇つぶし」と冗談めかして言いながら笑顔で面接指導に来てくれました。A先生のおかげでなんとか二級後期に移行することができたのだと思います。進級式の後、A先生はすぐに「おめでとう」と声を掛けに来てくれました。とても嬉しかったです。

でも、A先生は私が移行後一か月もたたないうちに退任となりました。これまでA先生のおかげで頑張ることができていたのに、感謝の言葉を一つも伝えることができずにお別れしてしまったことを今もすごく後悔しています。そこで、私は担任の先生に相談して、お手紙を書くことにしました。感謝を伝える手紙はA先生に渡すことができませんでしたが、青葉へ入院してからの先生へのたくさんの感謝の気持ちを書き、これまでの面接指導では話していなかった素直な気持ちも書きました。今思うと、感謝の気持ちは常日頃から伝えておかないと、いつ別れがやってくるかわからないので、伝えることが大事だなと思いました。また、同時に、A先生には感謝してもしきれない自分の気持ちに気づきました。

私がA先生との面接指導の中で一番心に残っている言葉は、

「成果は、考え方掛ける熱意掛ける能力」

です。何に対してもやる気が出せず、自分にも自信を持てなかった私にA先生が教えてくれました。先生は、「これをわかっていれば絶対自分を変えられる」とアドバイスしてくれました。「どんなに卓出している部分があっても、一つでもマイナスがつくと成果もマイナスになって、努力が無駄になる」とわかりやすく説明してくれたので、何かをする時に焦りやすい私は、今も常に先生の言葉を思い出すようにしています。また、別の機会には、「能力と熱意は充分にあるから、後は考え方だな」と助言してくれました。先生は私の心の細かいところまで理解してくれていました。このとき以来私は、「成果は考え方掛ける熱意掛ける能力」の言葉をいつも念頭において、物事に取り組むようにしています。

私は、A先生とお別れして、いろいろなことを教えてもらったにもかかわらず、時に忘れる程自暴自棄になり、全てがどうでもよくなってしまう時があります。周りの先生方に反抗してしまうこともありました。けれど、その時なぜかA先生の顔が浮かんできて、前に同じようなことがあった時、何と声を掛けてもらったかなと先生の励ましの言葉をいろいろと思い出すようになり、自力で乗り越え、立ち直ろうとするようになりました。今まではA先生や他の先生方など、周りの人の力を借りて復調していたのに、今は人の力に頼らずに自力でやろうとしています。これもA先生のおかげだなと気づきました。

もう先生はそばにはいませんが、常に先生からの言葉は私の心にあって、どんな時でも私を支えてくれます。青葉に来る前は大人を信じず、自分の気持ちを全く言わずに殻に閉じこもっていましたが、A先生の面接指導で不信感もやわらぎ、自分の心の内を少しは話せるようになりました。目に見える大きな変化ではないかもしれないけれど、私にとっては大きな変化だと実感しています。私は確実に変化しました。

出院間近になった私ですが、少年院に入ってしまったけどA先生という素敵な大人に出会えて、一生に二度とない人を信頼する心を得られて本当に良かったと思っています。先生に教えてもらったことを思い出しながら、もう一度地元での生活を一から努力しようと思います。

寸評

心から信頼出来る優しいA先生との出会い。その出会いに感謝して、今後は先生の励ましの言葉を心に刻んで更生への道をしっかり歩もうと思いめぐらしている気持ちの滲んだ文章です。自己反省の表情が見えるような具体性があって良いですね。

オッサン

東北少年院　H・Y

私は自分の人生で色んな種類、考えを持った大人達と出会ってきました。複数ある価値観から、自分なりに解釈し、自分の価値観へと変換してきました。独りで生きようとする事で沢山の出会いや別れを経験して、影響を受けたオッサン達がいました。そんなオッサン達の前に何故、私が独り立ちしているかについてご紹介しようと思います。

私は幼い頃から引っ越しが多く、幼馴染みも勿論いません。転校する度、受ける周りの視線が鬱陶しくていきがってしまい、それが自分の表現方法となり、不良となりました。悪い知恵は不良の好奇心を集め、私は権力を手に入れました。父は私のことを顧みずに、偽りの富ばかり気にし、家にはあまりいませんでした。母は私が幼少期、幼い私に暴力を振るっていました。どんなものかは言えるようなものではありません。体も大きくなるにつれ、できる事の増えた私は、家庭への愛情は薄れ、小学四年から家出をするようになりました。中学を卒業するときに、不良としての権力よりも家庭への嫌悪が勝ち、地元を離れる決断をしました。知らない土地へ行き、新しい出会いがあり、そこからオッサン達との出会いの幕が開けます。

私はまず二人のオッサンと同居をしていました。片方は元暴力団員、片方はホームレスでした。ホームレスのオッサンに何故、現在のような身分となったのか聞いたことがあります。「逃げ続けたから、」そう言っていました。オッサンはそんな人生に開き直り、今という時を謳歌していましたが、逃げたという言葉は、かつて地元と離れた私に響いた言葉でした。又、もう片方の元暴力団員のオッサンからは、「お前は不良の目をしている。でも、ヤクザにはなるな。オレみてえになる。」と言われました。ロは悪いし、裏社会の事情を豪気に語るヤッサンでしたが、自身の人生を反面教師にするように語る仕草は、愛情のようで友情のような人情を感じました。

翌年、私は拳闘をするためにジムに通っていました。そこで出会ったジムのトレーナーのオッサンは、かつて世界ランカーまで昇り詰めた正真正銘の元プロボクサーです。その人は私に拳闘の素晴らしさと、共に背中で語れる侠について教えてくれました。ある時、中々貯金のできない私を見て、代わりに貯めたるよと言い、自分の名前に銀行と名付けて、私の代わりに貯金をしてくれました。赤の他人であるはずの彼を信用したのも、彼から受けた信用と背中の偉大さを目のあたりにしたからです。彼も不良である過去があるにも関わらず、私にとっては眩しすぎる存在でした。私は拳闘をしている身分でありながら、喧嘩や乱闘騒ぎを起こし、オッサンを裏切りました。

私は一年と半年程鳶職をし、その時、共に現場で汗を掻いてきたオッサンがいました。沖縄出身の彼は我も強く、口も厳しいところがありましたが、沖縄流の酒の飲み方や仕事をやる生きがいを教えてくれました。私が不良であること知っていながら雇ってくれていました。ですが私は、やはり犯罪をし、逮捕をされ、裏切りました。

二回りも三回りも年上で、私の何倍も人生を経験してきたオッサン達の助言に聞く耳を持たず、同世代の不良と悪行の限りを繰り返しました。私にはオッサン達に謝る度胸はありません。今で尚、心の底からは反省できたとは言い難い私がいるからです。前述した以外にも薬物依存者、アルコール依存者、風俗店経営者等、色々なオッサンに会ってきました。私はその人達の悪い知恵だけを吸収してきました。この度、私は東北少年院に来て新しい出会いがありました。親しみと敬意を込めて敢えて先生達のことをオッサンと表現させて頂きます。このオッサン達は仕事というきっかけだけで私達に接しているのではありません。毎日二十四時間顔を合わせていれば、その情熱は容易く分かります。私はこのオッサン達の願いを裏切れば刑務所に行く未来はすぐそこです。オッサンに行くなと教えられたところに行こうとしている弱い私が有ります。私は人生を通して、筋を通すものだと思っています。勿論、全てで筋を通して生きていれば、少年院には来ていません。まがりなりにも、不良としての筋は通してきたつもりです。今、筋を通すのであれば、それは少年院のオッサン達の情熱に少しでも応えることです。これは、ここでの出会いに限らず、会ってきた全てのオッサン達に対する決して見えない恩返しとなると思っています。旅で出会った全てのオッサンに感謝です。

寸評

家庭環境の状態により人の道を踏み外してしまったと、率直な気持ちで語っています。そして、さまざまな「オッサン」達との出会いによって、「生きる為の姿勢」を知った事などを反省しつつ書いています。

詩の部

審査員

日本現代詩人会会員
日本文藝家協会会員
宮城県詩人会顧問

原田　勇男　先生

一滴の影響

盛岡少年院　Y・G

産まれたての子供
それはとても穏やかな水面と同じである
その水面には母や父が一滴の雫を落とす
その雫は愛情に代わり水面に波紋を呼ぶ
その波紋は水面の隅まで愛情を運ぶ
たった一滴で人の心に影響を与える
この一滴の雫がないと子供は不安になる
ただ一滴の雫があると不安になる人もいる
悪意に満ちた雫なら悪が
愛に満ちた雫なら愛が
善意に満ちた雫なら善意が
たった一滴でも波紋を呼び
その波紋が波紋を呼び
しだいに強い波に変わり
その人の心の一部になる
人はいつも雨に打たれている
その一つ一つは異なる
愛の雫　悪の雫　善の雫　正義の雫
怒りの雫　悲しみの雫　嫉妬の雫　喜びの雫
周りの人から与えられる数多くの雫
一人一滴落としたとしても

百人いれば百滴　千人いれば千滴
こうして一滴の雫は雨に変わり
雨は激しい波を作り　他の人を飲み込み
こうして一人の一滴は　他の人を巻き込み
知らず知らず人に影響を与えている
たった一滴の怒りや悪意が人を殺し
たった一滴の希望が人々を救う
すずめの涙ほどの小さなことでも
人を動かし変える力がある
私達人間はそのことを常に忘れず
助け合い小さな善意の雫を雨に変え
希望と幸せの花を咲かせていき
次の世代　次の世代へとバトンをつなぎ
いつかは希望の花で世界を染め
そして平和を創り上げる
その一滴に私はなりたい

寸評

スケールの大きな作品である。一滴の雫が雨を呼んで大きな流れとなって波及し、人間の善悪や世の中の動向を左右するまでになる。「すずめの涙ほど小さなことでも／人を動かし変える力がある」。そして、希望の花で世界を染め、平和を創り上げる。「その一滴に私はなりたい」という結びの言葉が効いている。

担任の先生へ

東北少年院　M・F

ありがとう　では伝きれない　けど
ありがとう　に全てを込めたから
ありがとう　これ以上は言わない
離れるなら嫌いと言いたいくらい好きな人
初めは近いようで遠かった
頼りたくても頼らなかった
さらけ出すことが怖かった
距離が離れてしまう気がした
それでも　ずっと見守ってくれた
頼りたい
勇気を出してやっと言えた
心が近くなった気がした
時に投げ出したくなることもあった
素直になれず悔しかった
それでも　何度も背中を押してくれた
まるでエナジードリンクのような人だった
僕は社会で見栄を張り続けた
誰にも言えず　非行で苦しみから逃げた
どこにも辿り着けない道へずれた
だから　飾らないあなたが格好よく見えた
蓮池の泥を掻いてくれたのか
花を咲かせてくれたのか
光が目に飛び込んで
感じた　変わりたいという本音
少年院は魔法の箱ではないけれど
開けたらそこには愛があり
前が見えなくなる時もあるけれど
感じた　幸せは遠くないと
不器用だからうまく言えない
愛を知って僕は導かれたから
本当はもっと応えたい
だから　これだけはせめて躊躇せずに
僕の想い　全てをかけるから
先生　本当にありがとう
これからは自分で道を切り開こう
この絶えない愛を絶やさずに

寸評

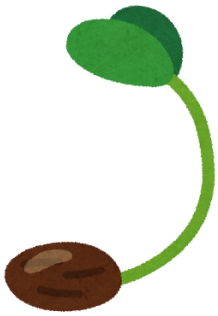
少年院で出会った担任の先生への感謝とオマージュ(賛辞)の気持ちが素直に伝わってくる。かつて見栄を張り、非行に走ったが、担任の先生に導かれて生まれ変わることができた。先生はずっと見守ってくれたし、何度も背中を押してくれた。「これからは自分で道を開こう」という決意がさわやかだ。

どうでもよかったのに

東北少年院　H・R

自分も周りも皆嫌いだ。
僕が死んでもどうでも良くて
他人が死んでもどうでも良くて
誰かを嫌う事もファッションで
産まれた感情ばかり憎んで
簡単に過去ばかり呪う
　幸福も、
　別れも、
　愛情も、
全て偽物で空虚な物だと思った。
大切だと気付いた時には
もう手遅れで
不安で一杯になる。
明日死んでしまうかもしれない
全て無駄になるかもしれない
　朝も　夜も
　春も　秋も
変わらず誰かがどこかで死ぬ。
夢も希望も何もいらない
君が生きていたのならそれでいい
　そういう事が言いたい。

それでも
　結局いつかは死んでゆく
　君だって、
　僕だって、
　　いつかは枯れ葉の様に朽ちてゆく。
それでも僕らは必死に生きて
命を必死に抱えて生きて
　転んで
　足掻いて
　抱えて
　笑って
　生きて
　生きて
　生きろ。



寸評

自分も周りの人間も嫌いで、自分が死んでもどうでもよいと啖呵(たんか)を切る。幸福も愛情も偽物だと思う。それが大切なものだと気がついたとき、急に不安で一杯になった。人はだれでもいつか死ぬ。しかし、それまではすべてをさらけ出して生きるのだと、自他を鼓舞している。

僕のはなし

東北少年院　S・K

アナログとデジタルの狭間
そんな場所を探した僕は
日に日に擦り減らしたカラダ　ココロ
頬を伝うのは涙
時間の流れは風を運んだ
濡らした枕も今は乾いた
二度と枕が濡れないように
今日の居場所に傘を差そうと思う

自由でありそうでないような現状
法の壁に守られた水槽
足掻いても蹠いても　底へ底へと誘われる
光なんて届かない　歌声なんて響かない
水に溶け込んだ悪の欲望は心を蝕むくせに

目覚めが悪い　朝はうんざり
血の滲んだ白目が赤い
顔を洗っても消えないワタシ
過去を洗っても何も癒えない

鏡の中の誰かが笑い
釣られて思わず笑う
美しいとは言えない顔に
釣られて思わず笑う

夜とか呼ばれる大きな影が
この街ごと優しく包む
「お先に失礼」と太陽が眠り
釣られて僕らも眠る

もっと遠くへ行こう
目的地は決めないよ
静かな音に馴らしていく心臓
眼が覚めたら明日も仕事

寸評

人生は必ずしも順調にはいかない。若い時代には夢と現実の間で引き裂かれ、どんなにあがいても望み通りには生きられない。目の前の壁に何度もはじきかえされながら、トライしていくしかない。そうした心の状態と向き合いながら、自問自答している時期の作品である。処方箋を自分で探すことからすべてが始まる。

短歌の部

審査員

「橄欖」運営委員

「橄欖」宮城支部代表

日本歌人クラブ会員

宮城県芸術協会　文芸部運営委員

宮城県歌人協会　「橄欖」代表

伊藤　久子　先生

※出品数が少ないため、金・銀・銅賞の該当なし

佳

海の上嵐もあれば凪もある君の島までただ漕ぎ進む

東北少年院　S・K

寸評

人生を航海にたとえているのでしょう。到達地点は「君の島まで」誰か待つ人がいるのでしょうか。

佳

努力とは一つ一つの積み重ね焦るなある日大輪が咲く

東北少年院　K・S

寸評

わかっているのですが、実行は難しいものです。いつか大輪の花を咲かせて下さい。

俳句の部

審査員

現代俳句協会宮城県支部幹事
宮城県俳句協会常任幹事
宮城県芸術協会委員

鈴木　三山　先生

夏の朝鳥の鳴き声目覚めろと

盛岡少年院　T・T

寸評
眠い朝でも鳥の鳴き声を聞くと爽やかな気分で起きることができそうである。

七日後の将来設計できる蟬

東北少年院　H・Y

寸評
蝉は地下での命が長いが、地上に出てから七日間しか生きられないと言われる。作者はそのことを知っていて将来設計としたのだろう。

風りんが音を奏でる夏の音

盛岡少年院　H・K

寸評
風鈴は夏の季語なので、夏の音を別の言葉に代えればいい句になる。

向日葵も礼儀正しく御辞儀かな

東北少年院　K・R

寸評
向日葵は成長するに従い頭を垂れるようになる。稲穂もそうだが、俳句は対象を一つが大事なので、向日葵もではなく向日葵はとしたい。

スイカ割りみんなあてずにだれが割る

盛岡少年院　I・M

寸評

スイカ割りで楽しんでいる風景が浮かぶ。なかなか割れる人がいないので、だれが割るのかなというところだろう。ただしみんなあてずにだとダーツみたいなので、言い方を変えたい。

赤とんぼ入道雲に駆けてゆく

東北少年院　S・K

寸評

入道雲のでている暑い夏空が思われる。赤とんぼは飛んでいるので駆けてゆくはどうかな。

セミの声轟き感じる汗の雨

東北少年院　K・S

寸評

炎天下で蝉の声が激しく鳴いている様子が浮かぶ。とは言え轟くとするには大き過ぎる。滝などなら轟くでいいのだが、蝉の声なので響き渡るくらいがいいかもしれない。

川柳の部

審査員

川柳宮城野社同人

宮城県芸術協会会員　佐藤　岩男　先生

大人だねナスの美味さに気付く僕

盛岡少年院　I・A

寸評

ナスの美味しさに気づきましたか。しあわせです。食べもの以外でもまだまだしあわせがあるようです。できるだけたくさんのしあわせを見つけて下さい。

父母の想いを受けて強くなる

盛岡少年院　I・K

寸評

両親が子を授かって先ず、名をつけます。どのような人間に育ってもらいたいかという強い願いが込められています。健康とか思いやりにあふれたとか・・・。

HB結構強いな俺よりも

東北少年院　H・Y

寸評

６Ｈは硬いが字がうすい。６Ｂは濃く書けるがやわらかすぎて汚れやすい。ＨＢがほどほどで丁度良いのかもしれません。鉛筆も丈夫になりました。

勇気こそ自分を変える力だね

盛岡少年院　M・S

寸評

自分を変えるのは、最後は自分でしょう。少しずつ、少しずつ、小さな変化の連続が大きな飛躍に見えるとも言います。他人の生き方、考え方も参考にして。

未来でも努力をすれば変わるもの

盛岡少年院　N・R

寸評

運命論者が言うように生まれてから往生するまで、決められた道を歩くのだと言う人もおりますが、ちょっとしたことで、別の道を歩むことになるのではないでしょうか。

盆休み田舎の夜空天の川

盛岡少年院　O・R

寸評

久しぶりの田舎での休暇、思わぬ出会いが、発見があるものです。何よりも天の川をはさんで、織姫と彦星の一年に一度の出会い。哀しいお話しですが。

来年は絶対俺が笑う年

盛岡少年院　I・M

寸評

人間の一生を通してみると幸運と不運は半分ずつだそうです。楽あれば苦。苦あれば楽。がんばりましょう。

夕映えが茜に染める白い壁

東北少年院　K・R

寸評

日頃見なれているはずの白い壁も、西日に染められ茜色に輝いていて、別の世界に迷い込んだような気分になります。きれいな句です。

文芸部門審査員総評

○作文の部

今回の応募数は、九篇でした。全体的に、しっかりした自己批判をしつつ、将来への夢や希望などを心込めて書かれた文章が殆どでした。九篇の全てを紹介出来ず残念ですが、例の規定に従い、以上のように紹介します。

尚、未掲載で残念ですが、盛岡少年院の「オツベルと像」を読んで(M・Sさん)や「ツエねずみとクンねずみ」（O・Rさん）などの読書に依る感想も、その趣旨を心得て書かれた感想文でした。

東北少年院のO・Nさんの「区別と差別とは何者なのか」は、人間の特異なる者への偏見は良くないと訴えて、平等性の大切さを強調している内容で、その思索がよく伝わりました。

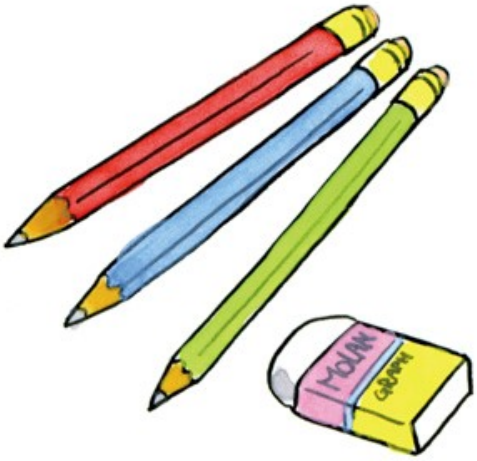
青葉女子学園のK・Tさん「これからの長い人生をどう生きるか」A・Aさんの（「wonder」を読んでみて)等も、読書によって今後の人生を真っ当に歩む大切さを知った」と、其の自覚がきちんと込められている内容でした。

川田　永子

○詩の部

応募作品が5篇と少なかったのは残念だ。金賞の「一滴の影響」はほぼ完成された出色の作品である。自分の思考と言葉の表現が的確で、知性と感性のバランスがとれた詩になっている。「担任の先生へ」も自分の言葉で先生への思いを素直に書いていて好感を持った。他の3篇は若い人特有の悩みが混在していて、行き場のない魂の状態を呈している。そこからどのように脱出するか、人生の旅はまだ始まったばかりだ。今後に期待しよう。

原田　勇男



○短歌の部

今年度の短歌部門は提出数が少なく、上位に選べなかった事は残念でしたが、短歌を作るには、先ず物事をよく見ることが大切です。そして、読む人にその内容が伝わるように、具体的に、助詞を入れて上下句つながるように、述べて下さい。これからも皆きんの心のアンテナをめぐらせて作歌する事をねがっています。

伊藤　久子

○俳句の部

全体的に俳句に取り組む熱意が感じられました。俳句にとって季語は大事な要素の一つですが、出来れば一句の中に一つの季語を使うようにして頂きたいと思います。

季語を数多く覚えることは大事ですが、季語の説明はしないことが肝心です。なぜなら、俳句は省略の文芸ですので、季語にはすでにいろんな要素が詰め込まれているからです。

次回はもっと多くの方に参加して頂くように願っております。

鈴木　三山

○川柳の部

生まれてはじめて「川柳」を作った人も多いと思います。どうでしたか。作ることは楽しかったですか。苦しかったですか。川柳は、俳句と並んで、日本では短い文芸と言われています。「短詩型文芸」などとよんだりもします。共通していることは、５・７・５の１７音で作られていることでしょうか。川柳は俳句にくらべてきまりごとは多くありません。

俳句には季語や切字が要求されますが、川柳では必要ありません。また俳句では、文語体で旧かなづかいで表現しますが、川柳は口語体で現代かなづかいで表現します。何よりも俳句は自然(花鳥風月)を詠みますが、川柳では、人間そのもの(所作、言行など)を中心に詠むようです。だから、川柳はふだん着の文芸、作業着の文芸とも言います。

みなさんの句を読ませて頂きました。今の自分の姿や今の自分の心の動きや思いを率直に表現している句が多かったです。ただ、もうちょっぴり、恰好をつければもう少し佳い句が出来ると思います。見たり聞いたりしたことをふくらませてのびのびと、自分の発想で自由に川柳を作って下さい。自分のために川柳を作ってみましょう。他の人の作品をどんどん読んで、自分の作品をどしどし作る（詠む)ことを心がけて下さい。

佐藤　岩男

絵画の部

審査員

宮城県芸術協会執行理事　吉田　利弘　先生

春の岩手山　　盛岡少年院　　M・S

寸評　　春の野にそびえ立つ、岩手山の雄大さが山肌の工夫により見事に表されている。

宙船　　東北少年院　　S・K

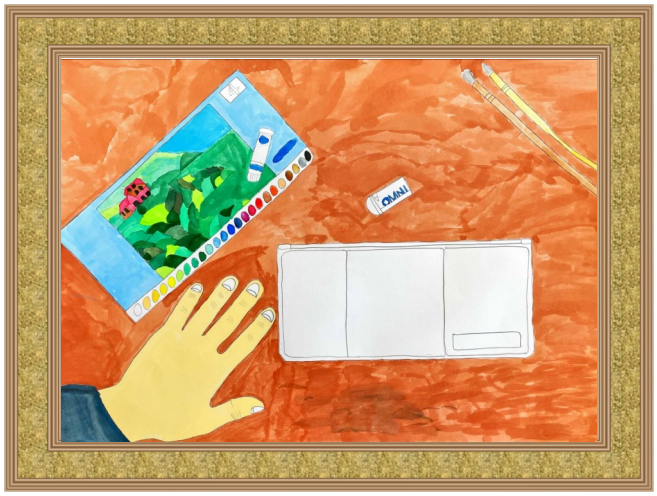
寸評　　宙を進む不思議な船、様々に想像をかきたててくれる作品である。

一輪のダリア

青葉女子学園　　I・M

寸評

さわやかな色調で、静かな空気感が漂う作品である。



自分の時間

東北少年院　　C・R

寸評

身近な素材をモチーフに主題を構成した工夫ある作品である。

私のバラ

盛岡少年院　　I・A

寸評

色の配置が工夫され、バラの輝きが良く表現されている。

あふれ出す感情

東北少年院　　C・R

寸評

何気ない事象を基に、豊かな発想で描き表された作品である。

大切な人に

東北少年院　　T・S

寸評

作家の思いが、シンプルな画面構成を通して見事に表されている。

自分地球

東北少年院　　H・S

寸評

点の一つ一つと、色の配置に見る者の想像力が刺激される作品でもある。

月あかりの岩手山

盛岡少年院　　I・M

寸評

月あかりにうっすらと浮かび上がる岩手の大地の空気感があふれている作品である。

盛岡少年院　　H・K

恐竜のいそうな岩手山

寸評

陽の陰った瞬間を捉え、空とのコントラストの違いにより雄大さを表現した作品である。

植物のドレス

青葉女子学園　　I・M

寸評

植物の集まりを墨の濃淡により憧れのドレスに仕上げた工夫ある作品である。

ポスター・カレンダーの部

審査員

宮城県芸術協会運営委員　鈴木　智枝　先生

February

東北少年院　　S・K

寸評

丁寧な仕事ぶりに感心しました。月・日の数字を強く目立たせるとカレンダーとしての役目ができます。

※出品数が少ないため、銀・銅賞の該当なし

明日への希望　　東北少年院　　Ｈ・Ｒ

寸評　　明日へ優しい気持ちは伝わります。明るい未来も少し表現して欲しい。

毛筆の部

審査員

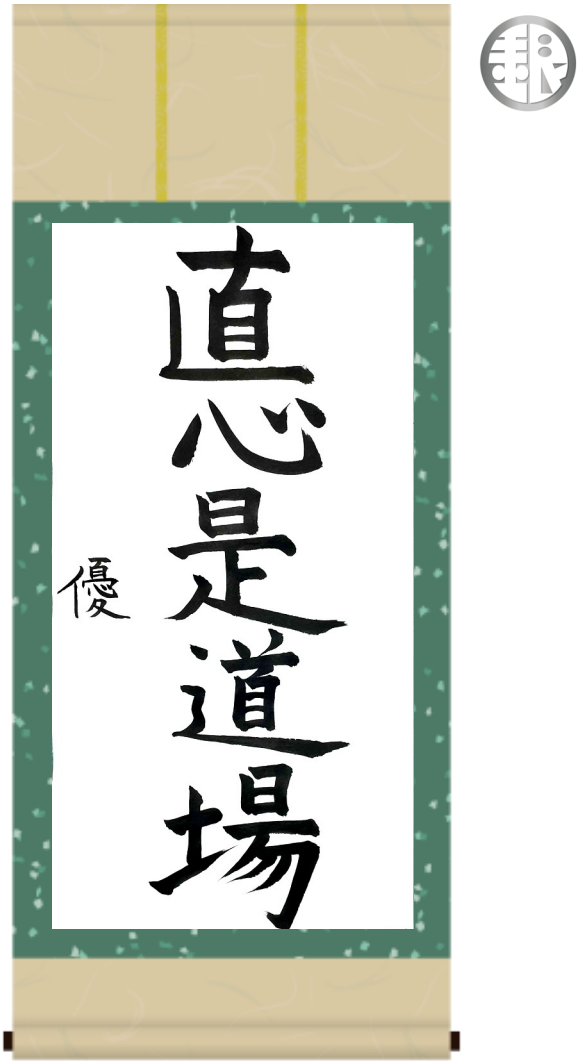
東北書道会副会長　村山　柳雅　先生

未来永劫

青葉女子学園　　わ

寸評

点画確実で端正な作。



直進是道場

東北少年院　　優

寸評

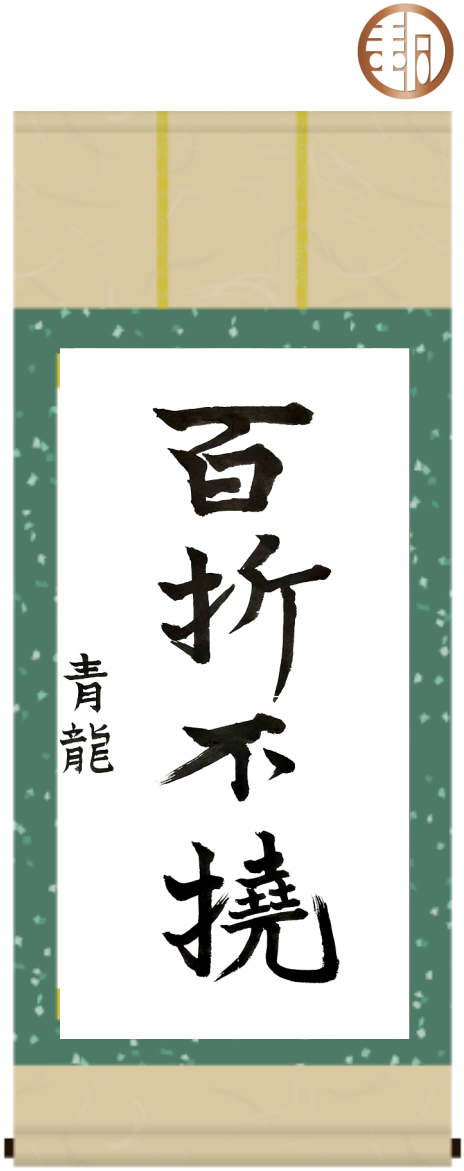
芯の通った書きぶりで緊張感がある。

春陽の期近し

東北少年院　　烈

寸評

明るく素直な雰囲気が漂う書。



感謝の心

東北少年院　　本

寸評

重厚な線条で墨は紙背に徹する。

百折不撓

東北少年院　　青龍

寸評

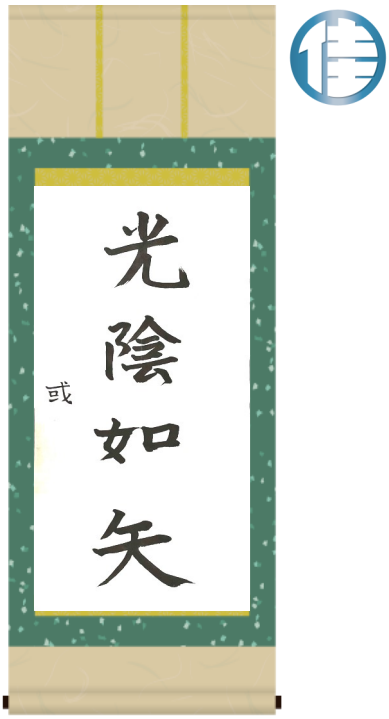
はらいに勢いがあり若さ溢れる。

起死回生

青葉女子学園　　か

寸評

運腕大きくスケール大きい作品。



光陰如矢

東北少年院　　或

寸評

ゆったりと穏和な風に書作し、好感。

喜怒哀楽

青葉女子学園　　あ

寸評

字中の余白広く明るい作品に仕上がっている。

和を以て貴しとなす

東北少年院　　律

寸評

多字作品を中心振れることなく書き上げ秀逸。

自靖自献

東北少年院　　瀧

寸評

線質鋭く、筆勢溢れる書きぶり。

空色

青葉女子学園　　し

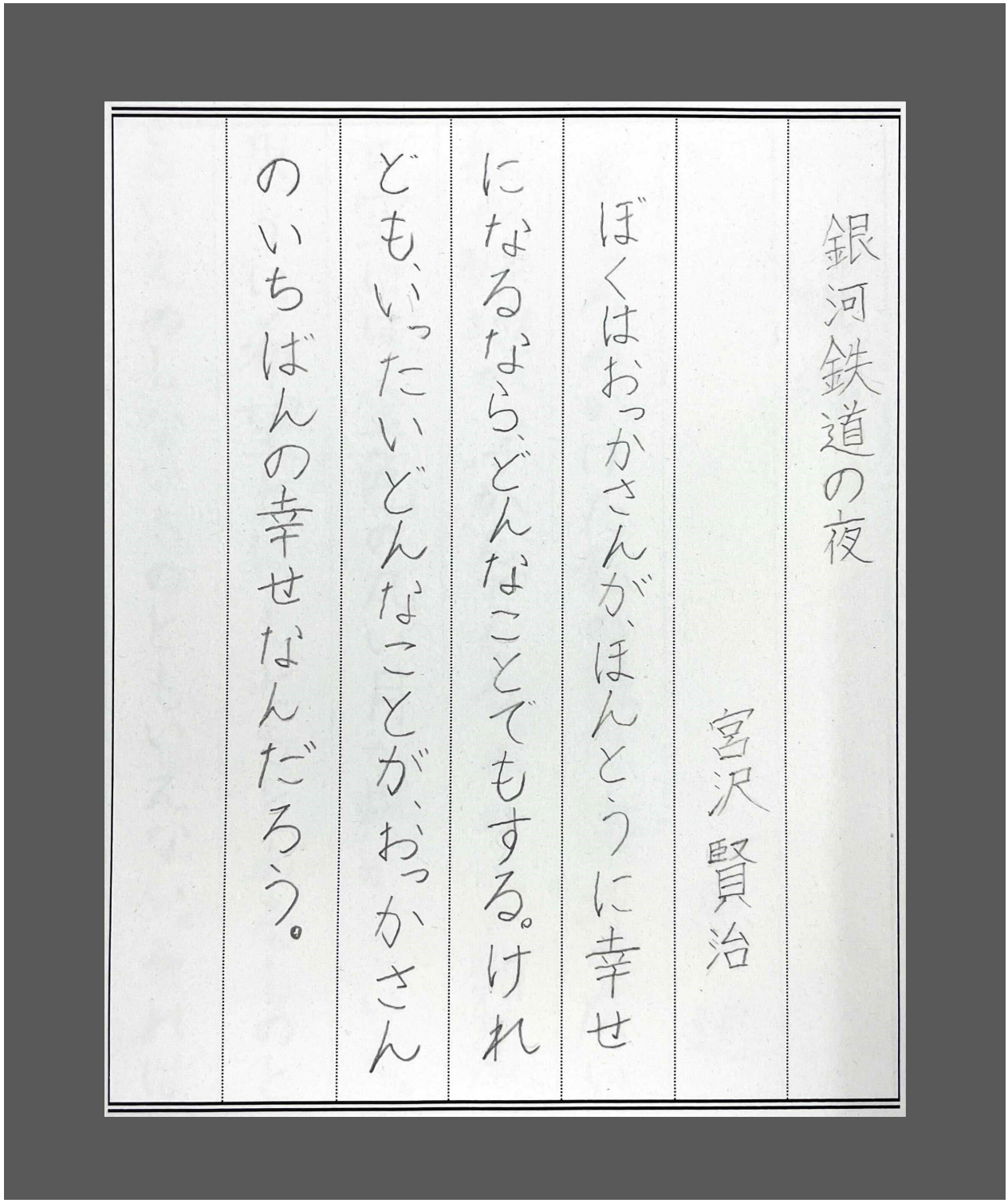
寸評

用筆の基礎が確りしていて字形整い、安定感抜群。

硬筆の部

審査員

東北書道会副会長　村山　柳雅　先生



銀河鉄道の夜

宮沢賢治

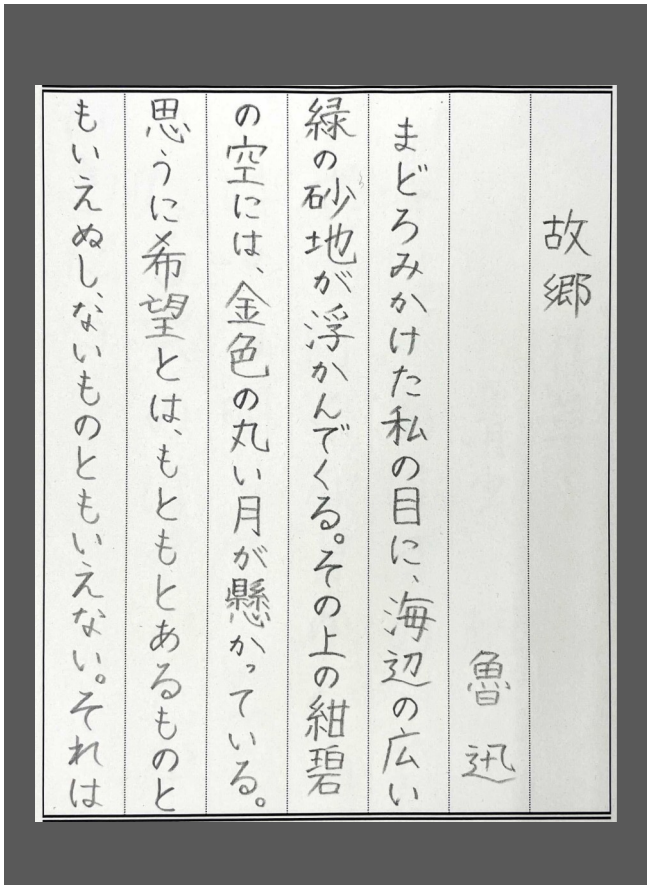
ぼくはおっかさんが、ほんとうに幸せになるなら、どんなことでもする。けれども、いったいどんなことが、おっかさんのいちばんの幸せなんだろう。

銀河鉄道の夜

盛岡少年院　I・K

寸評

字粒揃い、慎重に書いている様子が伝わる。



故郷

魯迅

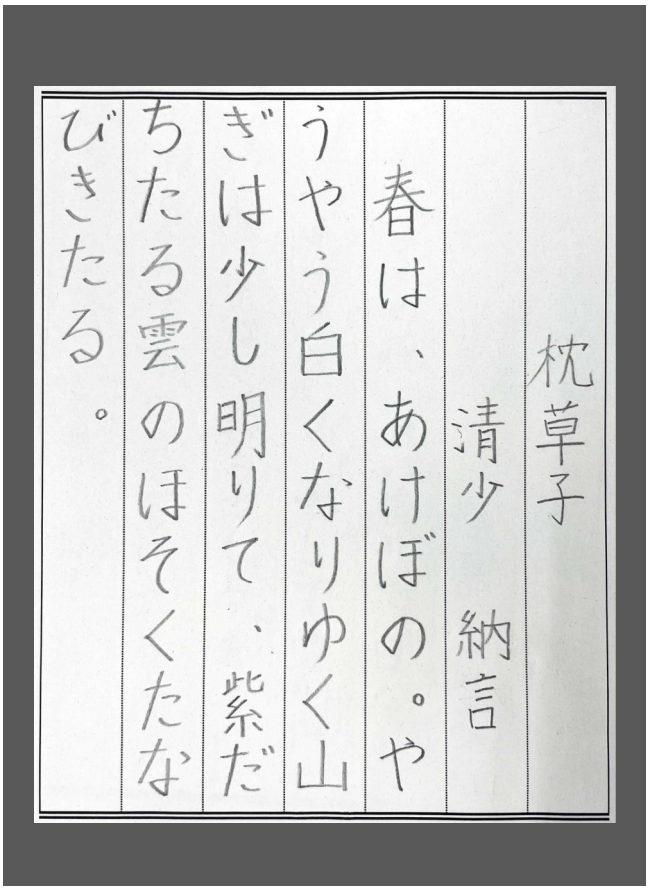
まどろみかけた私の目に、海辺の広い緑の砂地が浮かんでくる。その上の紺碧の空には、金色の丸い月が懸かっている。思うに希望とは、もともとあるものともいえぬし、ないものともいえない。それは

故郷

青葉女子学園　　T・Y

寸評

漢字を平仮名よりもやや大きくバランス良く書けている。



枕草子

清少納言

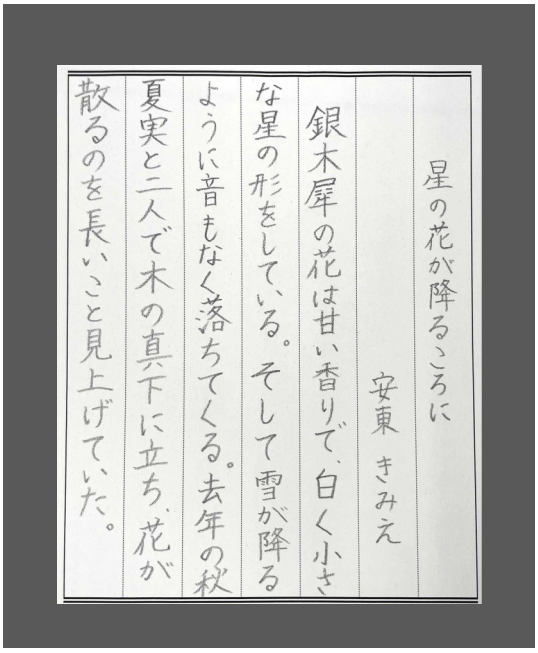
春は、あけぼの。やうやう白くなりゆく山ぎは少し明りて、紫だちたる雲のほそくたなびきたる。

枕草子

東北少年院　　T・H

寸評

転折を確実に、やや角ばった字形で整っている。



星の花が降るころに

安東 きみえ

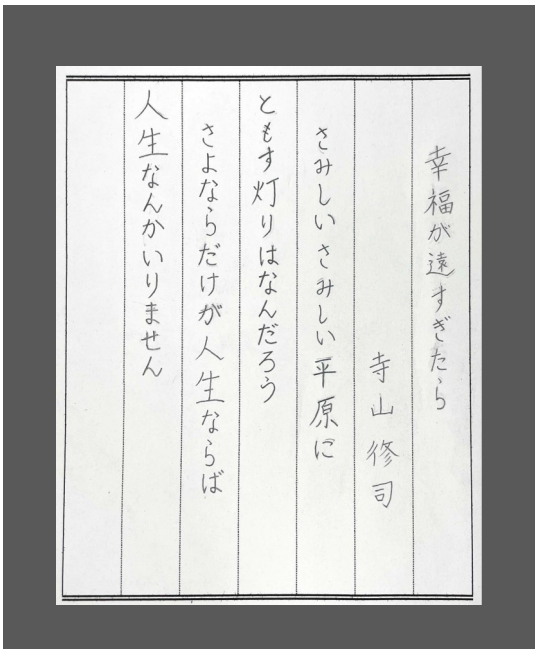
銀木犀の花は甘い香りで、白く小さな星の形をしている。そして雪が降るように音もなく落ちてくる。去年の秋夏実と二人で木の真下に立ち、花が散るのを長いこと見上げていた。

星の花が降るころに

青葉女子学園　　K・T

寸評

タッチが柔らかく、丸みを帯びた線が優しい作品。



幸福が遠すぎたら

寺山 修司

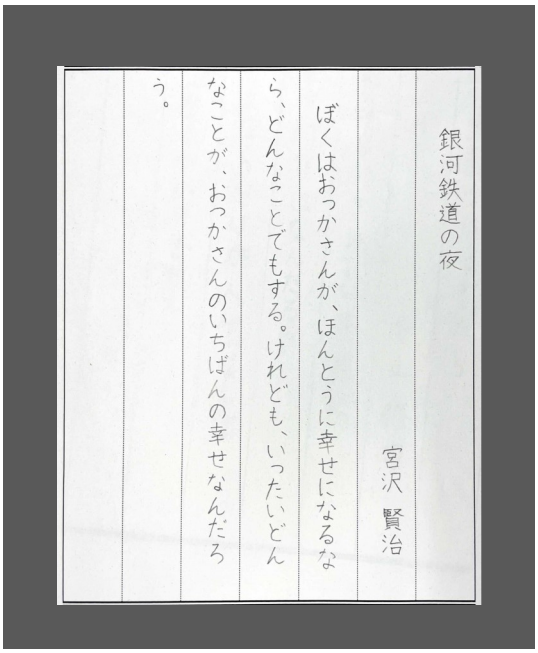
さみしいさみしい平原に
ともす灯りはなんだろう
さよならだけが人生ならば
人生なんかいりません

幸福が遠すぎたら

東北少年院　　M・F

寸評

筆圧ある文字郡が力強い。もう少し大きいと更に映える。



銀河鉄道の夜

宮沢 賢治

ぼくはおっかさんが、ほんとうに幸せになるなら、どんなことでもする。けれども、いったいどんなことが、おっかさんのいちばんの幸せなんだろう。

銀河鉄道の夜

盛岡少年院　　N・R

寸評

やや小粒ながら、行の天地（上と下）の高さを揃えて乱れない。

書画部門審査員総評

○毛筆の部

筆一筆が気魂込めた集中力に満ちた作品が多かった。一行書の作品は全て中心が振れることなく芯が通り見事。半紙作品も丁寧に書作されていた。

村山　柳雅

○硬筆の部

鉛筆を使用しても、消しゴムを使用しない、失敗しないという緊張感が伝わり、どの作品も慎重かつ丁寧に書かれていて好感度高い。漢字と平仮名のバランスの良い作品が入賞できたと感じる。

村山　柳雅

○絵画の部

出品数こそ例年より少なくなっていますが、一点一点が充実した表現となっています。特に受賞作は、絵の主題を表すために構成する物、その配置、そして色合いと濃淡に描く人の思いが注ぎ込まれていました。

吉田　利弘

○ポスター・カレンダーの部

出展作品が少ない為に、二点のみの授賞となりました。いずれも丁寧な仕事ぶり、大切なことです。佳作作品は明日へ、何を望むのかがもっと明確だと良いです。

鈴木　智枝

編集後記

本年度も、みちのく書画文芸コンクールとして書画作品及び文芸作品の応募を募りましたところ、各施設から例年に勝るとも劣らない、気持ちの込められた作品が寄せられ、本書画文芸作品集の発刊の運びとなりました。

文芸作品については、御審査を賜りました先生方の多大なるご協力のもと、各分野において金賞、銀賞、銅賞及び佳作作品を選定することが叶いました。

紙面の都合上、一部しか掲載することができないことが残念です。

末筆になりましたが、本誌の刊行に当たり、御審査と御指導を賜りました先生方に、誌上を借りまして厚く御礼申し上げます。

仙台矯正管区

仙台矯正管区